

同窓生との連携による課題解決型演習の取り組み

畑中貴美・シュルーター智子
北海道大学高等教育推進機構

1. はじめに

北海道大学は2013年度に新たな学士課程特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を開校した。新渡戸カレッジ独自の教育科目の一つである新渡戸学「フェローゼミ」は、北海道大学同窓生から選抜された新渡戸カレッジフェローが実施する少人数の演習形式の科目として、2016年度から開講されている。本発表では、本学同窓生との協力・協働による新しい大学教育の実践である新渡戸学「フェローゼミ」の取組みを紹介し、その意義と課題について考察する。

2. 新渡戸カレッジについて

新渡戸カレッジは、北海道大学の4つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、「新渡戸稲造の精神」に基づきながら、各学部の専門教育において高い専門性を修得するとともに、学部横断的な特別教育プログラムを通して、コミュニケーションツールとしての英語力、グローバル社会におけるチームワーク力、リーダーシップ力、異なる文化状況下における問題解決力、さまざまな文化的・社会的背景に根ざしたアイデンティティを身に着けた人材を育成することを目標としている。

3. フェローゼミの概要

フェローゼミの目的は、社会が抱えている諸課題の一面を現地視察で学ぶとともに、学問と社会のあり方や、持続可能な社会のあり方をグループワークを通して考え、同時に、リーダーシップ力・チームワーク力を身につけることである。フェローゼミでは、リーダーシップ力の中でも①コミュニケーション力、②課題設定力・解決力、論理的思考力、③専門能力を身につけることめざしている。

フェローゼミは少人数（20名前後）の演習形式で行われ、新渡戸カレッジ1年目の学生の必修科目と位置づけられている。学生はいくつかのゼミから関心のある一つを選んで履修する。開講時期

は10月から12月までで原則土曜日に実施される。各ゼミはゼミ担当フェロー1名が主導し、教員（「支援教員」）と学生（「学生支援員」）のほか、テーマに通じた人々の協力を得て実施される。

履修者は、フェローや支援教員とともに札幌市やその周辺地域で現地視察を行う。5名程度のグループを作り、現地視察に基づいて課題を設定し、解決策について検討する。最後のゼミで各グループがテーマごとに12分程度のプレゼンテーションを実施し、担当フェローや教員は、その中から最優秀発表を選ぶ。フェローゼミ成果発表の場である全体発表会では、各ゼミから選ばれた代表チームが一堂に会してコンペ形式でプレゼンテーション大会を実施し、担当フェローや教員により、上位1位から3位までの発表チーム及び学生の審査による学生大賞を選定する。成績評価は出席、授業、レポートを通して到達目標の達成度を合・否で評価する。

4. 2年間の取り組み

フェローゼミのテーマの多くは北海道が抱えるさまざまな課題への取り組みである。アンケートによると、履修者は①社会で活躍するフェローからの指導、②現地視察を通じて社会の現実と向き合い、議論やプレゼンテーションを通じて今まで知らなかったことに気づけたこと、③自主的な活動、④他学部の新渡戸カレッジ生との交流について好意的にとらえていた。また学生支援員については、議論への参加やレポートへのコメントを通してより深く履修者に関わることができたことを有意義と感じていることがわかった。課題はゼミを週末に実施するため部活動との兼ね合いに不満を持っている履修者が多いことである。また全体発表会について、ゼミの活動そのものよりも当日のプレゼンテーションの出来で発表の評価が決まってしまうことへの不満がフェローと学生双方から出された。今後はテーマの異なるプレゼンテーションやゼミの内容を評価する項目について改善を図っていきたい。